2026　四方山話(05)　　2026年10月16日(金)
「吉田松陰②　　松下村塾、そして！」

安政２年(1855)１２月１５日　出獄する
　　杉家の一室で謹慎生活
　　講義を始める
安政４年(1857)　　熟生が増える⇒一部屋増築
　　久坂玄瑞・高杉晋作
　　⇒松下村塾の双璧
　　伊藤利助・品川弥二郎
　　１１月５日　　「松下村塾」正式発足する
　　抄録・志・実行

安政５年(1858)９月　　大老「井伊直弼」による
　　「安政の大獄」始まる
　　１２月２６日　　野山獄に再入牢
　　言動が過激になっていく
　　高杉・久坂が奔走する
　　「師」を諫める
安政６年(1859)４月１９日　幕府が松陰を呼び戻すことを決める

　　出発する前に『肖像画」を書かせる
　　５月２５日　　松陰、罪人の籠で萩を出発する
　　６月３０日　　長州藩邸に到着、牢屋に入る
　　７月９日　　伝馬町獄に入る
　　高杉晋作に『お金』の指図をする
　　取り調べが始まる
　　１０月　　橋本左内・頼三樹三郎が処刑される
　　死刑を予感する
　　１０月２５日　　「留魂録」を書き始める
　　１６章 5000 字
　　１０月２６日　　長州藩屋敷に、明日死罪の連絡が来る
　　１０月２７日　　午前１０時　伝馬町獄にて、死罪執行
　　(享年３０歳)(満２９歳)
　　四斗樽に詰めて、小塚原に送られる

「留紺録」の冒頭に書かれた句

「身はたとひ　武蔵の野辺に　朽ちぬとも
　　留め置かまし　大和魂」